

18 フッ素洗口の効果
— 幼稚園児の第一大臼歯について —

○ 福田 潔, 大塚 政公, 森田 知典
(福岡予防歯科研究会)
中村 修一 (九州歯科大学生理学教室)

(目的)

第一大臼歯は咬合の中心として咀嚼運動に於いて大きな役割を果たしており、生理学上重要な歯牙である。ところが10才児に於ける第一大臼歯の罹患率は90%を示し、平均2.8本がう蝕に罹患している(1981年5月調査)。このことから第一大臼歯については、萌出の開始する幼稚園時期からう蝕予防処置を行うことが必要と考えられる。我々は幼稚園児を対象にフッ素洗口を行っているが、今回フッ素洗口2年間の効果、特に第一大臼歯について調査したので報告する。

(方法)

調査対象は福岡市近郊の3つの幼稚園の6才児236名である。このうちA群はフッ素洗口群で2つの幼稚園の107名であり、B群は非フッ素洗口群で残りの幼稚園児の129名である。A群は1979年4月から1981年2月まで集団フッ素洗口(0.2% NaF 溶液, 7~10 cc 1分間, 1回/週)を行った。両群はいずれも団地にかこまれた新興住宅地という類似した地域性を有している。またいずれの幼稚園でも同様に刷掃指導や甘味制限教育などの生活指導を行ってきた。

検診は1981年2月に第一大臼歯を歯牙別に視診で行った。有意性の検定には、 χ^2 -test を用いた。

(結果)

検診時の第一大臼歯の萌出状況について、萌出者率はA群66.4%、B群70.5%であり、両者には有意差は認められなかった。また萌出歯数はA群で2.8、B群で3.0であり、両者に有意差は認められなかった。

第一大臼歯の罹患状況について、罹患率はA群15.3%、B群32.6%で5%の危険率で有意差が認められた。罹患歯数はA群は0.19、B群は0.57であり1%の危険率で有意差が認められた。また罹患歯率については、A群7.0%、B群18.1%であり1%の危険率で有意差が認められた。

(考察)

小学校に於けるフッ素洗口の効果については多くの報告があるが、幼稚園でのフッ素洗口の効果についての報告は少ない。しかし以上の結果からも、幼稚園からのフッ素洗口が第一大臼歯のう蝕予防に効果のあることが示唆された。

第一大臼歯の萌出状況および罹患状況

	被検査者 総数	萌出状況		罹患状況		
		萌出者率 (%)	一人当り 萌出歯数	罹患者率 (%)	一人当り 罹患歯数	罹患歯率 (%)
A 群	107	66.4	2.8	** 15.3	* 0.19	** 7.0
B 群	129	70.5	3.0	32.6	0.57	18.1

* P = 0.05で有意差のあるもの

** P = 0.01で有意差のあるもの